

平成十五年七月十一日（金）

第三百十六回 史跡めぐり

戦国の歴史とロマンを

秘めた古城と

千姫縁のある弘経寺

越谷市郷土研究会



第三十六回 史跡めぐり

戦国の歴史とロマンを

秘めた古城と

千姫縁のある弘経寺

日 時 平成十五年七月十一日 午前八時十五分

集 合 南越谷駅前・りそな銀行南越谷駅前支店前

コース 南越谷—四号バイパス—関宿城博物館—猿島町・逆井城跡公園

下妻市・ます田と道の駅しもつま（昼食）—石下町・豊田城（石下町地域交流センター）

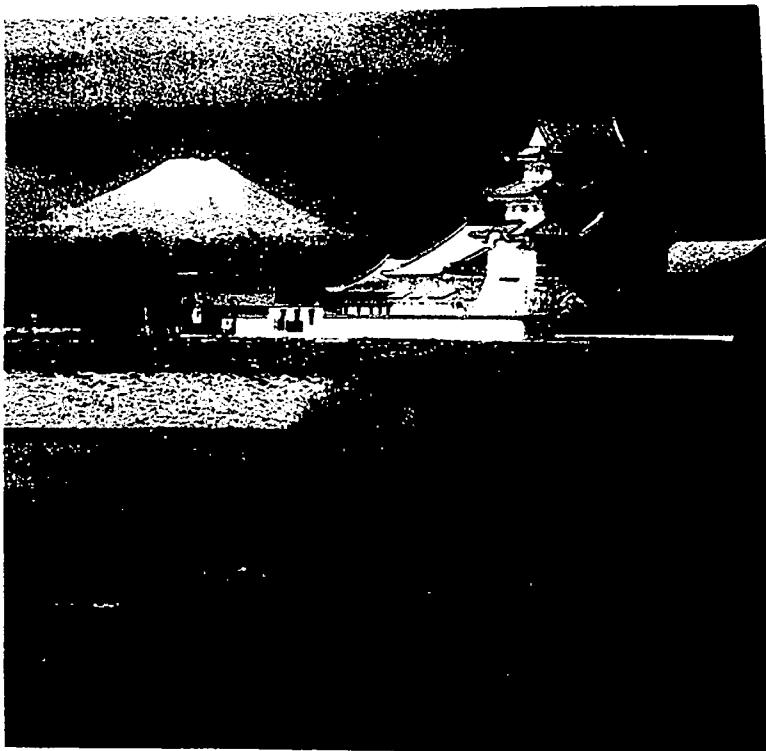
—水海道市・弘経寺—守谷市・アサヒビール茨城工場（見学・試飲）—南越谷

参加費 四千五百円

案内者 幹事 西村 功



◆ 関宿城（千葉県立関宿城博物館）

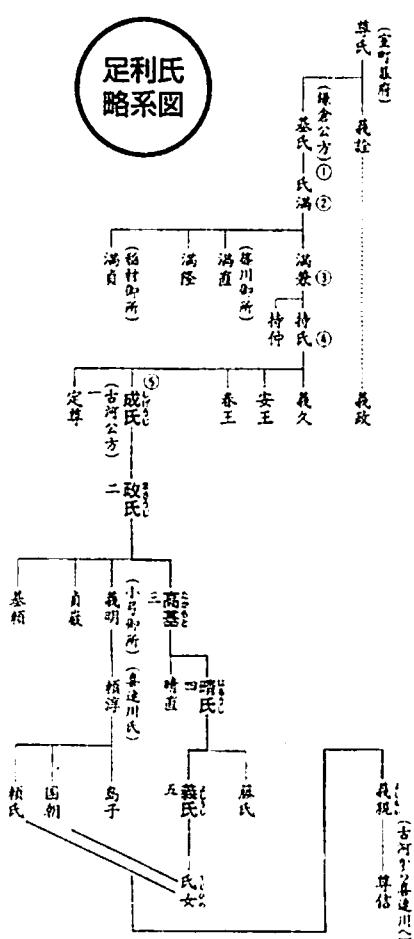
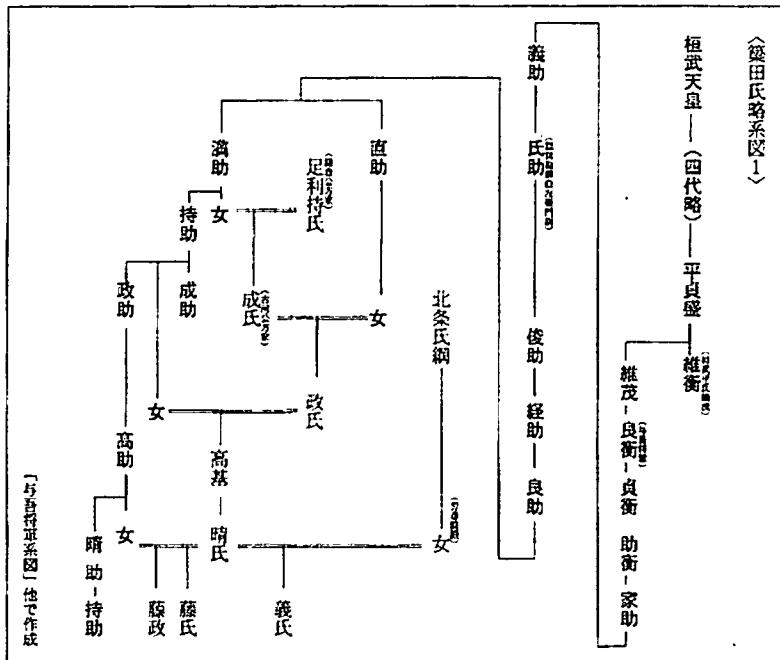


千葉県立関宿城博物館が白亜の天守閣を利根川の水面に映す関宿。ここ関宿は現在の千葉県からするとその北西の一端に位置する一つの小邑にすぎないが、時を五百数十年ほどさかのぼる戦国の世にあつては、坂東の勢力地図の帰趨を決する要衝の地であつた。この関宿の地にあつて水を制し、人事・軍略にたけた東国の武将が、古河公方足利氏、小田原の北条氏、更に武田氏、越後の上杉氏などを相手に一世を風靡した梁田氏で関宿城築城もこの梁田氏によるものといわれてい る。

応永年間（一三九四～一四二八）に梁田満助による築城説と長禄元年（一四五七）に梁田成助による築城説があるが、詳細はあきらかではない。足利成氏（鎌倉公方、のち古河公方）の拠点である古河城の出城的構造があり、城の原形は既に成立していたものと考えられる。長禄三年以降は古河城・栗橋城と並んで成氏の方の戦線の一翼を担つていた。

永正三年（一五〇六）以降、古河公方足利政氏は子の高基と対立し、同七年六月には高基が梁田高助の支援を受けて当城を足利義氏の御座所とし、代わりに古河城を晴氏に与えることを北条氏康が申し入れられた。同年六月に晴氏は当城を進上し、八月に義氏が河座している。当時関宿は東と北、および西の三方に囲まれた微高地に立地し、すぐ北側には

利根川と江戸川の分岐点がある。標高はおよそ十米。「彼の地を御手に入れ候は、一国を取りなされ候にも替えるべからず」と北条氏康がいつた戦略上重要な土地であつた。同四年になると上杉正虎（謙信）が関東を席捲したため義氏は古河城に戻り、再び梁田氏が復帰した。梁田氏は反北条の中心的な存在で、その後、北条氏との間で三回におよぶ関宿合戦が繰り広げられた。しかし天正二年（一五七



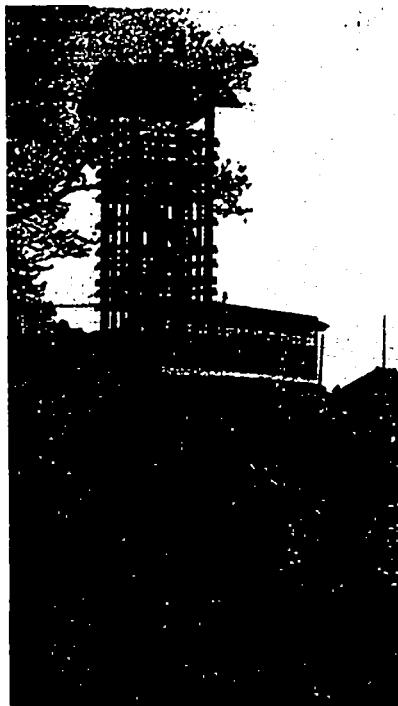
条、牧野、板倉、久世、牧野の各氏を経て、宝永二年（一七〇五）久世重之が五萬石で入封した。久世家は歴代幕府の重職を務め仲でも重之・弘明・広周は、老中を務めた。明治四年（一八七一）廃藩置県によつて廃城が決定し同年頃までに城郭は完全に破却され当城跡は圃場整備や河川改修などで殆ど消滅し遺構の確認は難しくなつている。

◆逆井城

逆井城は享徳三年（一四五四）下野大掾氏の十二代小山城（栃木県小山市）城主小山義政の五男の常宗がこの逆井に築城し、「逆井氏」を名乗ったのが始まりとされている。

逆井城は飯沼に臨む標高二十米の台地先端にあり、城の北側は飯沼があらい、西側は入江の蓮沼に接していた。飯沼は江戸時代の新田開発（干拓）により、湖水はなくなつたが、南北凡そ三十キロメイトルにわたりその名残をとどめている。このいいぬまが中央で力ギ形に力一ブするところに逆井城があり、沼の幅は1キロメートルと狭く、城は自然の要害であつた。今から約四百十五年前の戦国時代、この飯沼が小田原の北条氏と佐竹氏・結城氏・多賀谷氏らとの領国の境目であつた。北関東に進攻を

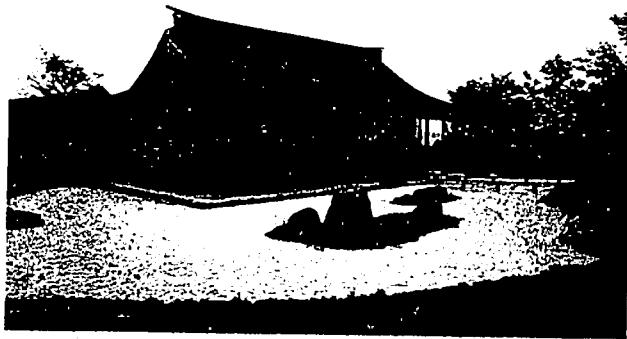
▼城跡公園入口より大手櫓、物見櫓をみる（左は平櫓と井櫓、右は関宿城城門）



▲井櫓矢倉を西堀からみる

一曲輪虎口前の橋と二番門



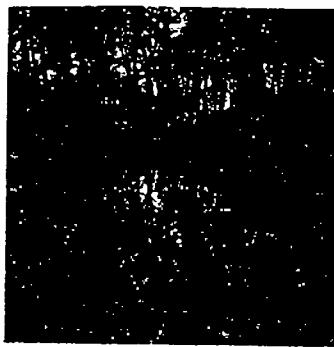


④ 主殿

茨城県牛堀町の大台城遺跡より出土した主殿遺構を参考に建築されたもので、逆井城と同時代に存在していたものです。

⑩ 飯沼

戦国時代末期、旧飯沼は東西約1km、南北30kmの沼で、自然の要害として北条氏の最前線基地である逆井城を守っていました。



⑨ 鐘堀池

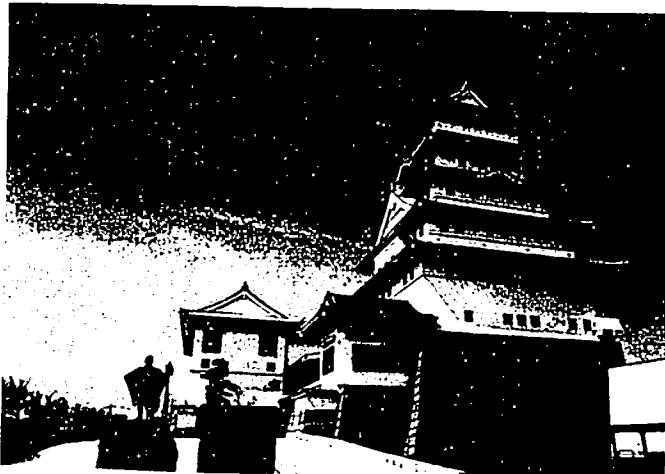
天文5年(1536)、ときの逆井城主逆井常繁は、北条軍に敗れました。この時、城主の奥方(娘ともいわれている)は先祖代々伝わる釣鐘を被ってこの池に飛び込み自殺、城は落城した。この奥方入水の池が今もある空堀の中の「鐘堀池」であるという。



つづける小田原北条氏は大道寺駿河守を大将に逆井城を攻撃、城主逆井常繁は討死し、その奥方の智御前は先祖代々伝わる釣鐘をかぶつて、城中の池に飛び込み自殺、城は落城した。この奥方入水の池が今もある空堀の中の「鐘堀池」であるという。天正五年(1577)に北条氏繁が大規模な改修を行い、現在残るような規模となつたが、天正十八年(1590)豊臣秀吉の小田原征伐で開城、徳川家康が江戸に入ると廃城となつた。

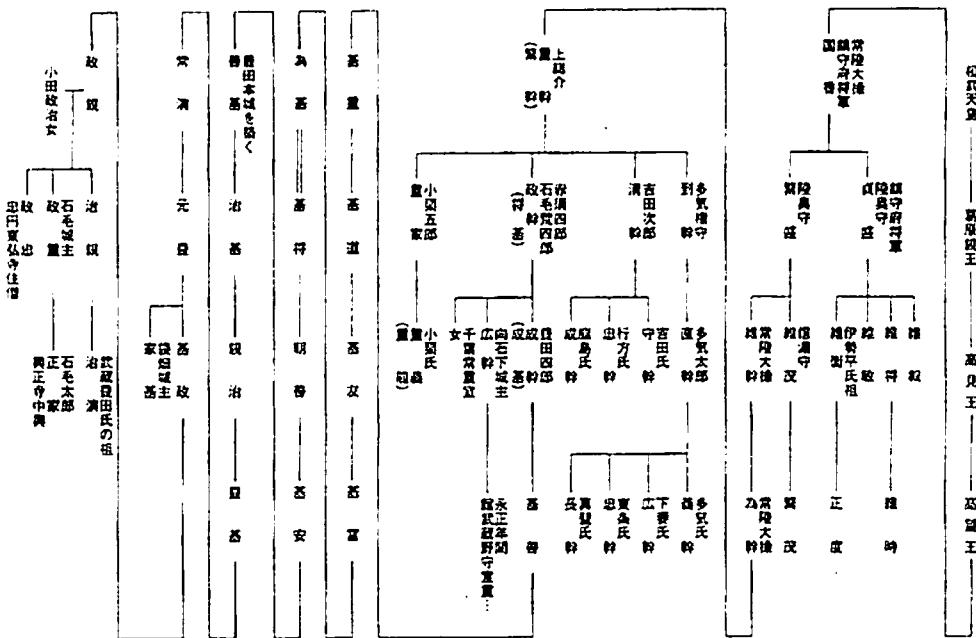
◆ 豊田城

豊田城 小貝川西岸、本豊田集落東南に位置する豊田氏の居城。平将門（将門の本拠地が豊田郡にあった）没後、前九年の役（一〇五一～一〇六二）に従軍した桓武平氏の一族陸奥守平繁盛の曾孫平政幹が豊田郡を賜り、名前を豊田平四郎政基と改め、この地を領し豊田城を築き、豊田氏二十二代約五百二十年間の繁栄を築いた。

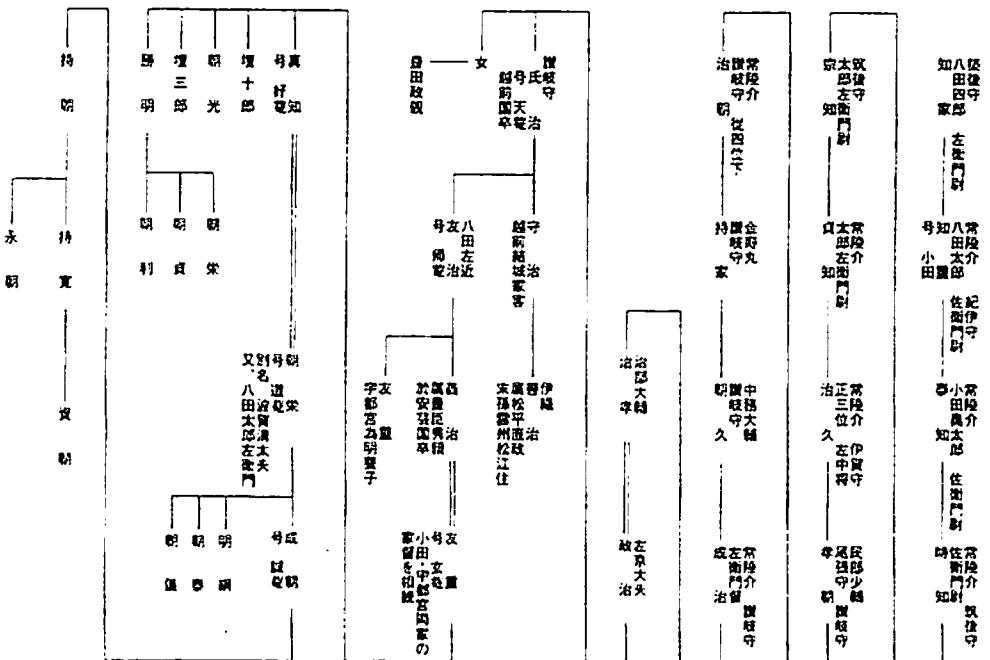


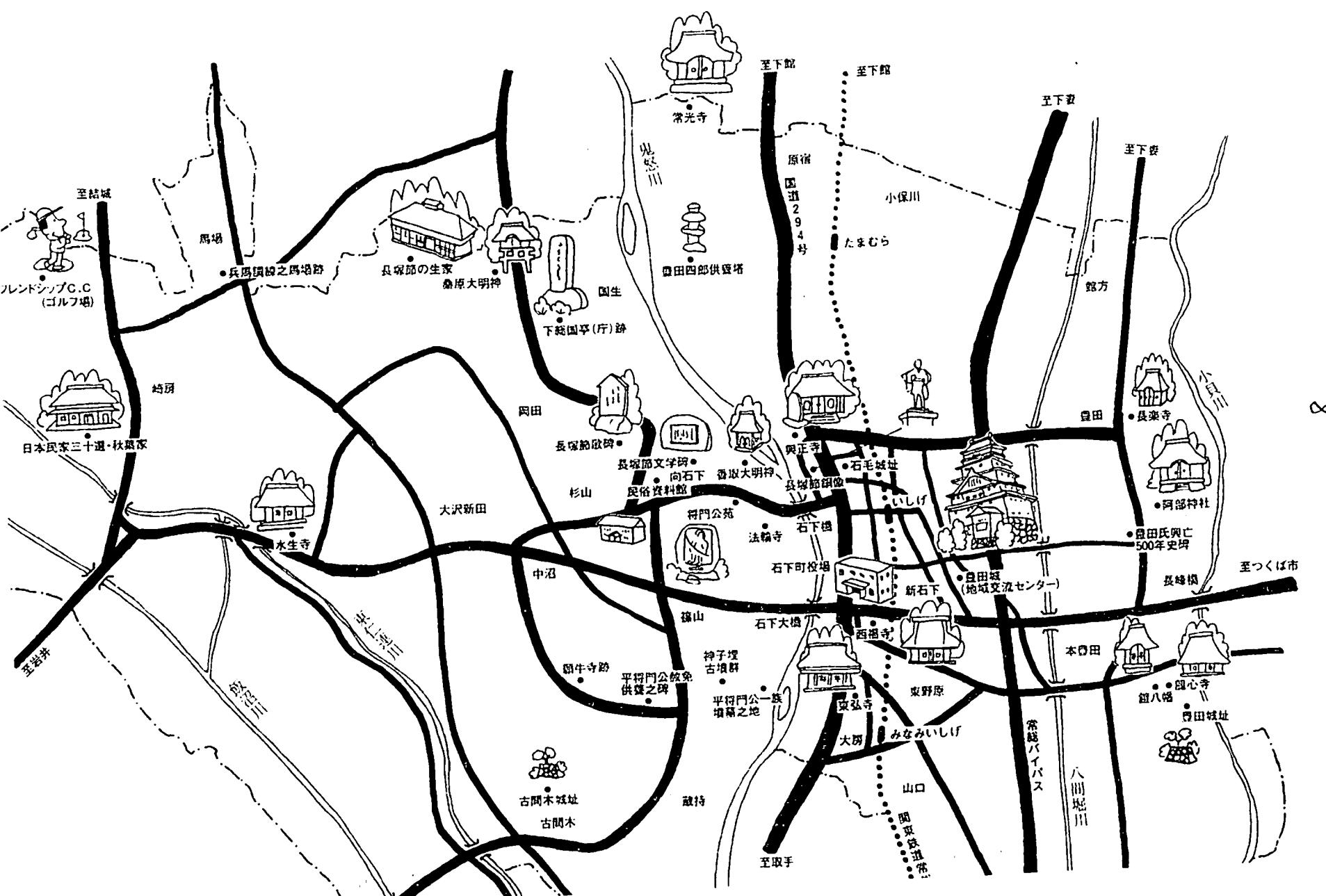
豊田郡域には平安末期に豊田庄が成立しており、豊田氏がその地頭であつたと考えられ、戦国時代に入り常総地方は、東は小田氏、北に佐竹氏、西に結城氏が強勢を張つていた。結城氏の家臣多賀谷氏は下妻城を本拠地として主家より独立を図り、その体制が整うや佐竹氏と結び小田・豊田氏領へ侵入。豊田氏は多賀谷氏に対して十九代元豊が次男家基に源義家より拝領の甲冑を与え豊田領最北端の袋畠（下妻市）に城を構えて分封し前衛基地としたが、多賀谷氏の攻勢の前に文明十四年（一四八二）より麾下の吉沼城・向石毛城を攻略された。二十一代政親は小田政治の女をめとり小田氏との関係を強固なものにし、その勢力を背景に保身の策を取るとともに、天文元年（一五三二）石下に石毛城を築き次男政重を石毛に分封し多賀谷氏の侵略に備えた。二十二代治親は天正三年（一五七五）多賀谷氏の重臣白井善通と結託した家臣飯見大膳に毒殺され、その間隙をついて多賀谷氏は豊田城を攻略し、豊田氏は滅亡し、時を移さず石毛城をも攻略した。豊田氏滅亡後多賀谷重経の息三経が豊田城主となるが、三経が太田城（八千代町）にうつるにおよんで廃城となつた。当時の城は萱葺きで小貝川の水を要塞としたものと思われる。関ヶ原の戦いに西軍に味方したので慶長二年（一六〇〇）後、多賀谷氏が改易され幕府の直轄領となつた。城趾の規模等は小貝川の河川改修工事等で詳細は不明である。

豐田氏略系図



■小田冢昭彦





◆弘経寺

茨城県には「弘経寺」と名の付く寺院が三つある。下総の三弘経寺といわれ、水海道市の弘経寺、通称飯沼弘経寺。取手市の弘経寺、通称新弘経寺。結城市的結城弘経寺でそれぞれ飯沼弘経寺と関係があつた。



水海道弘経寺は寿龜山天樹院と号す。浄土宗。御本尊は阿弥陀如来。江戸期浄土宗の学問所として関東十八檀林の一つに列した。浄土宗中興の祖了譽聖問の弟子嘆譽良筆が、下総国横曽根城主羽生経貞とその一族の被護を得て、応永二十一年（一四一四）に創建。開創以来鎌倉光明寺。瓜連常福寺と並び関東地方の浄土宗の中心寺院で、学問所としても多くの学僧を輩出した。天文七年（一五三八）三月、五世鎮譽祖問の代には後奈良天皇より勅額をうけ、勅願所の綸旨を賜った。天正八年のはじめ九世檀譽存把の時、下妻城主多賀谷氏と小田原北条氏が合戦に及び北条氏によつて堂宇をことごとく焼き払われた。のち結城秀康の帰依を受け結城に弘経寺を建立した。十七世紀初頭に十世照譽了学を迎えて飯沼弘経寺を再興し、再び学問所として発展した。了学は徳川家康や秀忠・家光の信頼篤く、後に増上寺十七世に昇進してゐる。寛永三年（一六二六）家康の孫千姫は了学に帰依して五重相伝を受け、天樹院殿吟譽源法大姉と法名を授けられた。朱印百石

を寄進された。元禄年間には末寺六十二ヶ寺を数えた。また、千姫は弘経寺の再興に力を尽くした。現在の本堂は千姫の寄進によるもので、堂内には千姫の直筆と伝えられる寺号の扁額が掲げられている。寛永十年（一六三三）の建立で、創建当時の姿のままの内陣は幕府の威光を今に伝える莊厳さをもつていて、弘経寺は東京芝の大本山増上寺の別院となつており、本堂の裏手には増上寺靈園がある。

◆千姫

徳川幕府二代将軍秀忠の長女として生まれ、七才にして従兄の豊臣秀頼に嫁いだ。千姫十九才の時大坂夏の陣が起き、豊臣家が滅亡、夫秀頼は自害。翌年姫路城主本多忠政の長男と再婚し、一男一女をもうけた。千姫三十才とき夫忠刻が病死し、二度目の未亡人となり、失意のうちに江戸へ戻った千姫は落飾して「天樹院」と号して江戸城の一画、竹橋に住まいを得て、甥の三代将軍家光にたよりにされ、相談に乗り助言したりしてちからになり余生をおくり、七十才で波乱の人生の幕を閉じた。遺言により弘経寺に築かれた廟所に、東京小石川の伝通院より分骨され納められた。明和二年（一七六五）の古文書に芝増上寺において天樹院百年忌を三日間にわたり盛大に行われたという記録が書き記されている。



茨城工場のご案内

Welcome to Saitama Breweries

見どころ紹介 見学・アクセス 周辺観光案内

工場サイトトップ



福島工場



神奈川工場



名古屋工場



岐阜工場



西宮工場



四国工場



南多工場

広大な敷地、水と緑の無いあふれる自然豊かな工場。
地上60mの展望接待館での眺望は最高です。

オリエンテーションシアターやオープン庭園をはじめ楽しい施設がいっぱい。また、水と緑に恵まれた広大な敷地にそびえる展望接待館で飲むビールは格別。茨城工場は、まさにアサヒが誇るアメニティ・ブルワリーです。

見どころ紹介

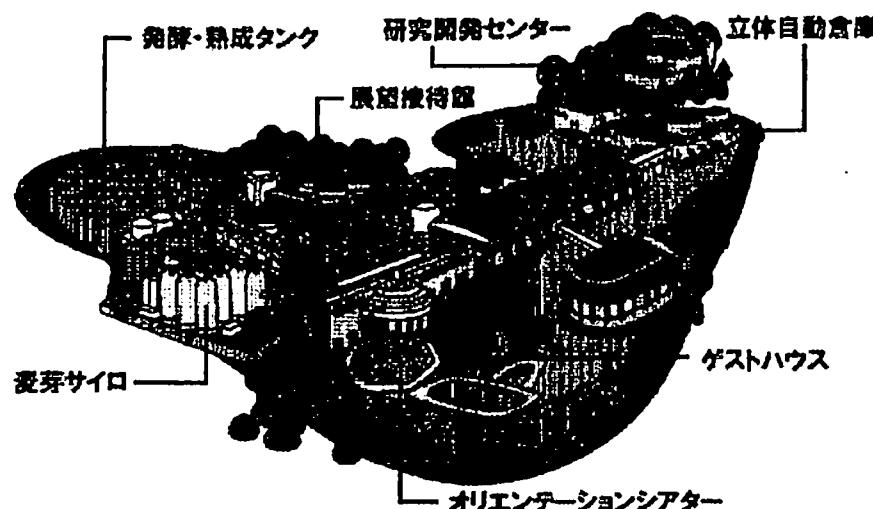
最新鋭の設備からビールが誕生する工程をご覧いただく見学コースをご紹介します。

見学・アクセス

工場までのアクセスや電車や車の交通情報を掲載しています。ご予約のご案内もこちらです。

周辺観光案内

茨城工場周辺の観光情報をお届けします。工場見学と合わせてお楽しみください。



参考図書

- 梁田家文書
関宿城博物館
郷土資料辞典
日本地名大辞典
茨城県の地名
逆井城
猿島町教育委員会
常設展示解説図録
石下地域交流センター
- 千葉県立関宿城博物館
千葉県立関宿城博物館
人文社
角川書店
平凡社

